

片瀬のぞみだより(5月号)

日本基督教団片瀬教会付属

片瀬のぞみ幼稚園

家庭通信2016. No.2

月主題聖句

『神は愛です。愛にとどまる人は、神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってください』

ヨハネの手紙Ⅰ 4章16節

片瀬教会牧師 柴 適

冬枯れの野や山には、木や草が枯死しているように見えますが、この間に、根を下に張り続け、いのちの力を蓄積し、春の到来を待ち続け、新しい命の若芽の誕生へ導きます。その息吹き喜びを私達に提供してくれるのは、創造主なる神様のめぐみです。

美しい桜花も散り、木々や草花の若芽の彩りが、さらに新緑の美しい季節へと私達を誘ってくれていることに気づかされます。

厳冬の間は、園児の皆さんの行動も、寒さに負けたかのように、じっとしていることが多かった事と思います。

入園式、進級式も終わって、一か月が経ちました。この新緑と暖かくなった日差しの中で、自然と親しむ時間の中に、新しい発見と出会いを遊びの中に色々工夫しています。この時を通して、園児のみなさんには、無限の可能性が秘めていることに気づき、本当に微笑ましさを感じます。キリスト教は、愛の宗教と言われます。今月の聖書の言葉に『神は愛です』とあります。この『愛』は、ギリシャ語で『アガペー』と言い、『相手の立場に立って考える』『相手の喜びや必要を満たすために手を差し出す』と言う、自分よりも相手を大切にする無条件の愛の意味があります。ヨハネの手紙Ⅰ 4章 11節～12節に『愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、私達も互いに愛し合うべきです。いまだかつて神を見た者はいません。私達が互いに愛し合うならば、神はわたしたちの内にとどまってくださり、神の愛がわたしたちの内に全うされるのです。』とあります。この聖書の大切な意味は、①愛は神から出ていること②わたしたちが互いに愛し合うこと『隣人愛・「隣人を自分のように愛しなさい(マタイによる福音書 22章 39節)』の二点です。具体的には、『神の愛』とは、『神から出ているもので、隣人を自分のように愛し合いながら、その人を無償の愛をもって大切にする、つまり、その人の今のままだが大好き』と置き換えることが出来ると思います。この神の愛に気づき、この愛を行う人は、すでに、神と出会って、神の愛を全うしている人だと言うのです。

5月の主題は『気づき』です。それは、目に見えませんが、全ての創造主なる神様の愛に気づき、分け隔てなく全ての人を、園児の皆さんを大切に愛してくださり、いつも一緒にいて守り成長の大きな力になってくださるお方であることに気づき、気づかされることが主題です。礼拝やお友達、教師、保護者の皆様との関わりを通して神様の愛に気づかされることを喜び感謝したいものです。今月、皆様のお子様が、園での時間を通して、様々な学びや自然との営みの中に昆虫や草花、鳥のさえずりなどに興味、関心、想像力を持ち、不思議に感じる事が多くなり成長が豊かなものになって行くことでしょう。生き物を大切に育て、観察する心の広がり、春という季節を体感する歓喜と驚嘆する元気な声として聞かれるのがとても楽しみです。

お子様の何気なく気づく事の中に、成長へと繋がる大きな宝物、財産があり、隠されています。私達は、些細なことにも注意するばかりでなく、褒める優しさ、心の広さを持ちたいものです。イザヤ書 43章 4節に『わたしの目にはあなたは価高く、貴く、わたしはあなたを愛す』とあります。神様はどんな人の小さなことにも気づかれ、どんな小さな価値に対しても大切なものとして、大きく成長させてくださるお方です。その神様の愛に気づいて行く5月といたしましょう。

